

第4次

志津まちづくり計画書

令和8年（2026年）－ 令和12年（2030年）



令和8年(2026年) 4月

志津 まちづくり協議会

目次

はじめに		
	計画策定の経緯	3
	計画の範囲	3
第1章 志津学区の状況		
	1.地域の概況	4
	2.地域の特性と魅力	4
	3.地域の交通環境	5
第2章 前計画の振り返り		
	1.プロジェクト制への移行による成果	7
	2.次なるステップへの課題と新計画への反映	8
第3章 志津まちづくり計画の概要		
	1.基本理念と基本方針	9
	2.事業推進体制	10
	3.進行管理	11
	4.草津市版地域再生計画(志津学区まちづくりプラン)との連携	12
第4章 志津まちづくり計画方針		
	1.楽座プロジェクト	14
	2.福祉プロジェクト	15
	3.里地里山プロジェクト	17
	4.地域見守りプロジェクト	18
	5.防災プロジェクト	19
	6.DX プロジェクト	20
第5章 計画策定の経過		
	1.策定委員会の経緯	21
	2.策定委員会 委員名簿	22
	3.住民アンケートの実施	23

はじめに

平成 23 年（2011 年）12 月、新しい住民自治の仕組みとして志津学区内（以下「学区」）のあらゆる団体や組織が参画して、「志津まちづくり協議会」（以下「協議会」）が発足しました。その後、草津市では平成 26 年（2014 年）7 月に「草津市協働のまちづくり条例」が施行され、市民および市行政の役割を明らかにし、互いに分担・協働しながら学区の自主的なまちづくりを推進することが謳われ、同年 8 月には協議会が同条例に基づく志津学区の代表として認定されました。

第 1 次、2 次計画では「ふれあい、支え合い、住み続けたいまち 志津」の基本理念を掲げ、第 3 次計画では、新しい志津まちづくりセンターが完成したことを受け、「ふれあい 支え合える 楽しいまち」の基本理念のもと、新センターを有効に活用したまちづくりを目指してきました。そして今回の第 4 次計画ではこれからの時代に沿った「志津まちづくり計画」（以下「本計画」）を策定しました。次の 5 年間も、さらなる志津学区のまちづくりの発展に向けて進めていきます。

・計画策定の経緯

令和 7 年度（2025 年度）をもって第 3 次の計画が終了し、令和 8 年度（2026 年度）からの新たなまちづくり計画を策定する必要があることから、「志津まちづくり計画策定委員会」（以下「策定委員会」）を編成して取り組みました。

策定委員会では第 3 次での志津まちづくり計画推進会議の総括のほか、各プロジェクトによる振り返りワークショップ、住民向けに実施したアンケート結果などを踏まえて、これから 5 年間のまちづくり指針となる「第 4 次志津まちづくり計画」を策定しました。

【計画の期間】

第 1 次	平成 23 年度	（2011 年度）	～	平成 27 年度	（2015 年度）
第 2 次	平成 28 年度	（2016 年度）	～	令和 2 年度	（2020 年度）
第 3 次	令和 3 年度	（2021 年度）	～	令和 7 年度	（2025 年度）
第 4 次	令和 8 年度	（2026 年度）	～	令和 12 年度	（2030 年度）

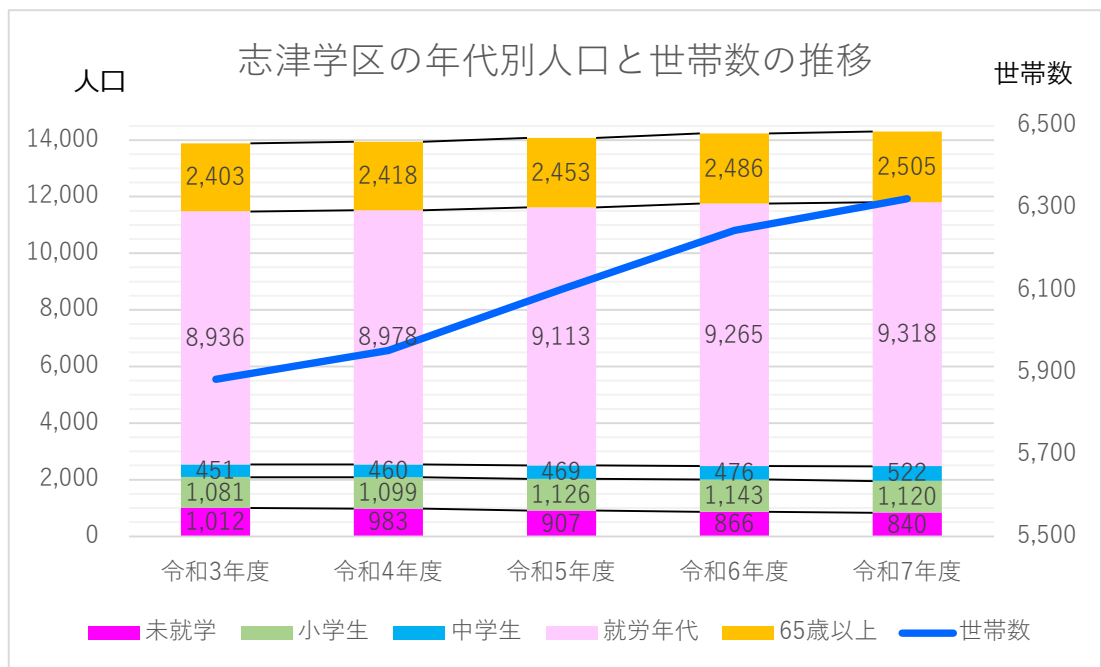
・計画の範囲

本計画は、この地域で暮らす皆さんにとって身近な生活圏である志津小学校校区を対象に、町内会・自治会をはじめ各種団体、個人、企業などが主体的に「自分たちの手で行える」取組を進めるための、実践的な 5 か年計画として策定しました。草津市と志津学区が協働してまとめた草津市版地域再生計画（志津学区まちづくりプラン）は、市街化調整区域を中心に、生活環境や交通、地域資源の活用など、市と連携して進める施策の方向性を示すものです。今回、本計画の策定にあわせて同計画も改定し、両計画の整合性を高めることで、志津学区の持続可能なまちづくりにつなげていきます。

1. 地域の概況

草津市南東部に位置する志津学区は、区域東部にロクハ公園の森林や緩やかな丘陵地が広がる、自然に恵まれた地域です。市内でも希少な城址が残り、由緒ある寺社が点在するなど、歴史と文化も受け継がれています。こうした良好な環境を背景に、平成2年（1990年）頃から青地町や追分エリアを中心に宅地開発が進み、現在も子育て世代の転入が続いている影響で志津小学校は1,000人超の過大規模校となり、中学校でもマンモス校化が進んでいます。

一方で、65歳以上の高齢者数も緩やかに増えています。なお、草津市の推計では、志津学区の児童数・生徒数は現在がピークで、今後は減少に転じる見込みとなっています。



出展 草津市人口統計データ

2. 地域の特性と魅力

○ 草津川

学区を横断する草津川は、かつて洪水被害が頻発する天井川でした。1980年代（昭和57年～）からの平地化工事により一部で通水したものの、上流部は依然として天井川のままで、近年の台風でも堤防決壊の危機に直面しました。防災の観点から平地化の早期実現は学区の切実な願いとして、今後も国や県に対し、着実な整備推進に向けた働きかけを継続していきます。



○ 青地城址

鎌倉から戦国時代にかけて活躍した武士・青地氏の拠点（平山城）であった青地城址は、周囲の由緒ある寺社とともに地域の歴史を今に伝えています。明治9年（1876年）には、この城址に「志津小学校」が開校されました。現在は創立150周年を迎えた志津小学校が建ち、歴史ある景観の中で子どもたちの学びを育む学区の象徴となっています。



○ 田園風景と農業

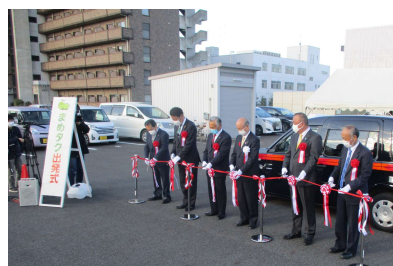
馬場・山寺地区の東部には、のどかな田園と里山が広がっています。一方で後継者不足による耕作放棄地の増加が課題となっており、農業の維持と継承に向け令和2年度（2020年度）より「圃場整備」が開始されました。区画の大型化による負担軽減や収益性の高い野菜栽培への転換を可能にする基盤整備を通じ、農地を次世代へ引き継ぐ環境づくりが進められています。



3. 地域の交通環境

○ 公共交通と「まめタク」の導入

主要なバス路線が通る（通称）志津道（県道）以外のエリアでは、長年、公共交通の空白が課題でしたが、令和2年度（2020年度）よりデマンド型乗合タクシー「まめタク」の運行が開始され、地域内の移動手段が一定確保されました。



○ 山手幹線の開通

令和7年（2025年）8月、岡本町から湖南省市へ続く山手幹線が開通しました。国道1号の渋滞緩和や近隣市へのアクセス向上により、広域的な利便性の向上と地域経済の活性化が期待されています。



○ 志津道と国道1号の交差点改良

志津道では通勤時間帯の激しい渋滞が長年の課題となっていましたが、令和7年（2025年）4月に国道1号との交差点の改良工事によりバスや一般車のスムーズな通行が可能となり、慢性的な渋滞も緩和しつつあります。



【志津学区の範囲】



※各町内会・自治会の位置は、概ねの位置を示しています。

©OpenStreetMap contributors

1. プロジェクト制への移行による成果

前計画（第3次）の開始にあたり、まちづくり計画推進会議を設立し計画の進捗を毎年度 PDCA で評価する体制を整えました。また、担い手の高齢化や事業の硬直化を打開し「活力あるまち」の更なる発展を図るため、従来の部会制から「やってみたい人・できる人」が主体的に参加できるプロジェクト制へ移行しました。5つの重点プロジェクト（令和4年度からは防災プロジェクトが独立し6プロジェクト）を軸に、住民・団体・行政が連携して取り組んできました。コロナ禍の制約下でも知恵を出し合い、コミュニティの灯を絶やさず新たな活動を模索した5年間でした。今回の計画策定にあたっては、プロジェクトごとにワークショップを開催し、これまでの成果と課題について意見交換を行いました。

<プロジェクトの主な成果>

○楽座プロジェクト

「多世代交流の場づくり」を中心に、新センターを拠点とした賑わい創出に寄与しました。コロナ禍でも分散開催などの工夫を凝らし、地域交流の重要性を再確認した5年間となりました。

○福祉プロジェクト

関係団体と連携し、高齢者の見守り体制を構築。学区内で増加する子育て世代への支援「くすのきレストラン」や「ぷらっと茶屋」を通じた孤独・孤立防止の活動を展開し、さまざまな住民が参加する事業へと成長させました。

○里地里山プロジェクト

草津市内で唯一里山をもつ学区として、学区の子とその親を対象とした自然体験を通じて、里山を次世代へ引き継ぐ意識と郷土愛を育みました。

○安全・安心プロジェクト

通学路の安全安心と事故・犯罪のない環境づくりに尽力したほか、啓発活動による住民の防犯意識向上などの活動を定着させました。

○情報プロジェクト

広報誌や情報掲示板、SNS で学区の情報を継続的に発信したほか、「IT 活用研修」などを通じて住民の情報格差の解消に努めました。

○防災プロジェクト(新設)

安全安心プロジェクトから独立し、学区ハザードマップづくりや防災訓練の支援など、地域の共助体制の構築に向けた活動に取り組みました。

2. 次なるステップへの課題と新計画への反映

5年間の活動を通じ多くの成果が得られた一方で、「運営の継続性」や「若年層・新住民の参画促進」「担い手の固定化・不足」などの共通課題も浮き彫りとなりました。本計画では、これまでに築いた成果を礎に「志津らしさ」をさらに深化させながら、地域のニーズや実情に即した事業を柔軟に展開することで、持続可能なまちづくりの実現を目指します。

また、これらの活動をひきつづきプロジェクト制で推進しながら、協議会・各種団体・町内会がより効果的かつ効率的に機能するための連携体制の構築にも注力していきます。

1.基本理念と基本方針

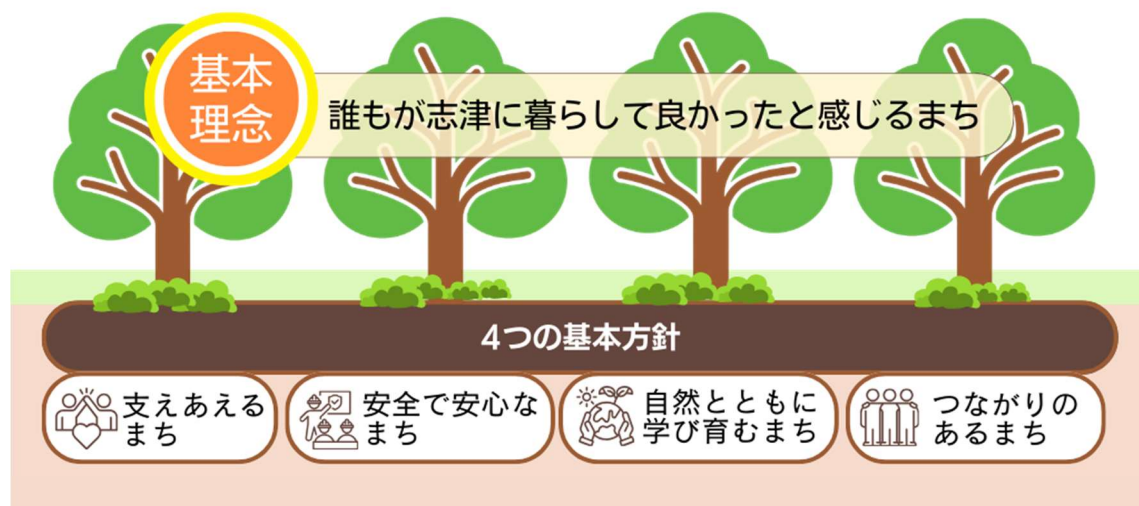
<基本理念>

誰もが志津に暮らして良かったと感じるまち

年齢や立場に関わらず安心して暮らし、人とのつながりや支え合いを日々の生活の中で実感できるまちづくりを目指します。そして、志津に住むことを誇りに思い、「これからも住み続けたい」と感じるまちづくりを続けていきます。

<基本方針>

基本理念の実現に向け、次の4つの方針を柱として活動を推進します。



1)支え合えるまち

高齢者や障がいのある方、子育て世代が孤立せず、地域全体で温かく見守り助け合える関係を築きます。

2)安全で安心なまち

災害への備えを強化し、防犯・交通安全の意識を高め、誰もが心穏やかに過ごせる生活環境を守ります。

3)自然とともに学び・育むまち

志津の豊かな自然に親しみながら子どもから大人までが学び合い、心豊かに成長できる環境を創ります。

4)つながりのあるまち

世代の垣根を越えた交流を促進することで、多様な個性が尊重される開かれたコミュニティを育み、地域の活気を次世代につなぎます。

2.事業推進体制

計画を着実に実行していくための「推進の体制」を定めます。

① 6プロジェクトの連携と強化

基本方針の4つの柱を基盤として、6つのプロジェクトが情報共有と連携を図りながら、「志津に暮らして良かった」と感じてもらえる事業運営を推進するとともに、2つのプロジェクトについては、「安全安心プロジェクト」を「地域見守りプロジェクト」へ、「情報プロジェクト」を「DXプロジェクト」へと名称を変更し、各プロジェクトの使命と機能の強化を図ります。

② 関係団体等との連携・つなぎ役

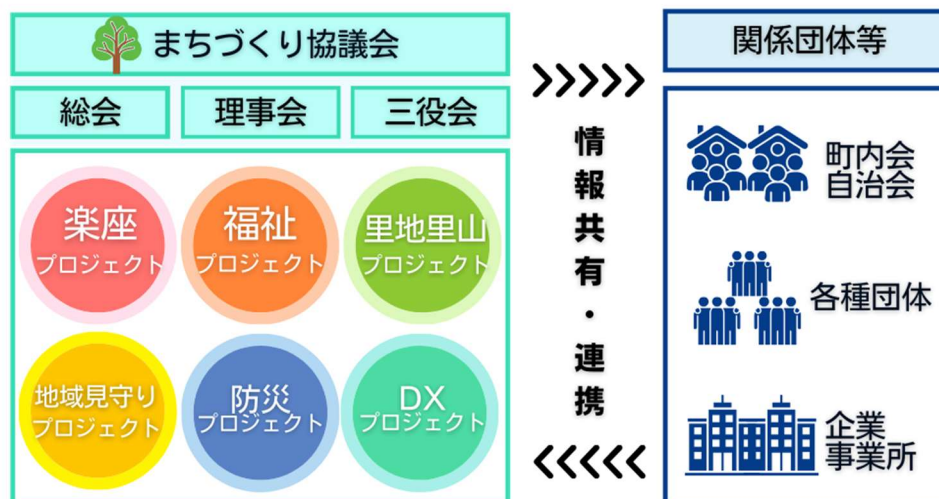
まちづくりを進める上で、協議会は町内会をはじめ、志津社会福祉協議会、志津地区民生委員児童委員協議会、志津地区体育振興会など、各団体と連携して推進していきます。

また、地元企業など学区内の多様な組織との連携づくりにも取り組んでいきます。

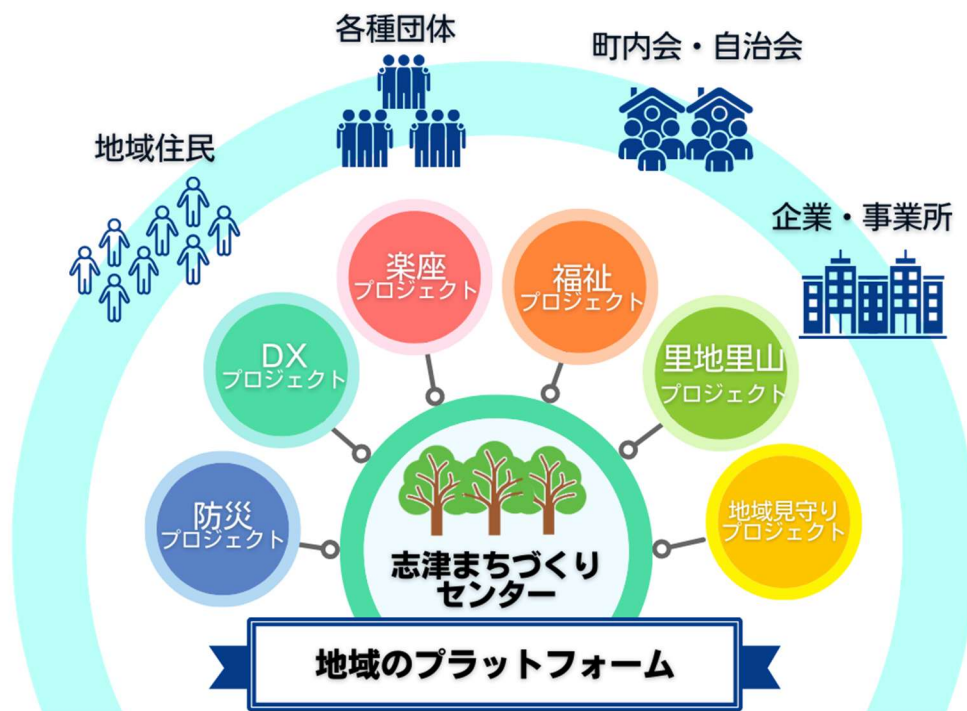
<事業の推進体制>

志津学区には、さまざまな立場や思いをもつ人や団体が暮らし、活動しています。まちづくりは、そうした住民や町内会・自治会、企業、学校、各種団体などが出会い、思いを共有し、共に考えることから始まります。本協議会は、これらの人や組織をつなぐ「地域のプラットフォーム」として、交流と対話の場を提供します。防災・福祉・見守り・環境・にぎわいづくりなど、分野ごとの活動を結び付け、それぞれの強みを活かしながら地域全体で課題に取り組む基盤となります。

協議会は何かを一方的に決める組織ではありません。まちの調整役として、人・想い・活動をつなぐ「つなぎ役」を担い、情報共有や連携を通じて地域の取り組みを支えます。



<「地域のプラットフォーム」のイメージ>

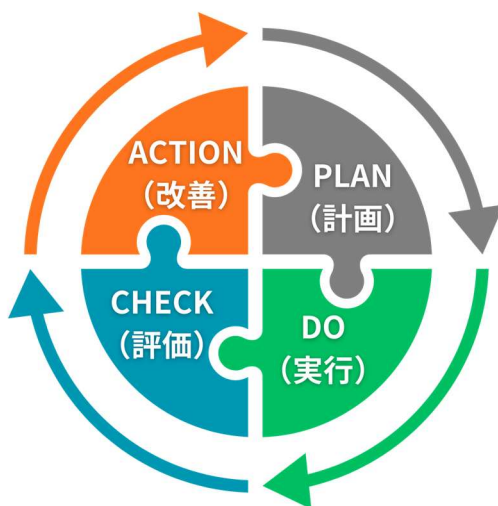


3. 進行管理

この計画は5年間にわたることや予算の調整などが伴うことから、年度ごとに事業計画及び予算措置を行い、本協議会の総会に諮った上で事業を実施するものとします。

事業を計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)のPDCA手法で行い、実施した事業については協議会の役員会において評価を行い、以後の事業展開に反映させていきます。

今後の志津学区および草津市の状況を踏まえ、計画の実現性、可能性の変化に対応しながら適宜見直しを行います。



4.草津市版地域再生計画(志津学区まちづくりプラン)との連携

本計画では、市が地域と協働して取り組む「志津学区まちづくりプラン」※と相互に連携・補完しあうことで志津学区の持続可能なまちづくりも進めていきます。

志津学区まちづくりプランと連携する取り組みについては **プラン** と表記しています。

I 生活拠点の形成

① まちづくりセンターの利活用の推進

「まちづくりセンター」の利活用を促進し、地域住民相互の交流と利用の促進を図る。

【地元の役割】 まちづくりセンターでの地域行事等の開催

【取り組み例】

- 「楽しいまち」を創造する交流事業の企画・運営

【楽座プロジェクト】 (P.14) 他

II 交通環境の充実

② 補完公共交通の充実

「まめタク」について、地域住民の生活拠点ゾーンへのアクセス性を確保するとともに、まちづくりセンターの利活用と連携し、生活拠点における基幹交通（駅への交通）との乗り継ぎ利便性の向上を図る。

【地元の役割】 ニーズの集約

【取り組み例】

- 健幸（健康×幸せ）や認知症の支援に向けて

【福祉プロジェクト】 (P.15)

③ 公共交通以外の住民移動サービスの検討

更なる高齢化等による運転免許証の返納や、バス停までの移動の困難化を見据え、既存の公共交通以外の住民移動サービスについて検討を行う。

【地元の役割】 ニーズの集約、手法の検討

【取り組み例】

- 外出支援の促進【福祉プロジェクト】 (P.16)

※ 地域再生計画制度に基づき、人口減少などが進む市街化調整区域を重点支援するため、市や地域が協働で取り組む施策などを取りまとめた実行計画。

Ⅲ 地域資源を活かした産業の支援

④ ロクハ公園の利活用

ロクハ公園において、地域内の企業や事業所等とも連携し、志津ふれあい広場などのイベントを開催することで、地域コミュニティの活性化を図り、地域への愛着と誇りを育む。

【地元の役割】 ロクハ公園利活用

【取り組み例】

○ ロクハ公園・志津まちづくりセンターの拠点活用

【楽座プロジェクト】 (P.14)

⑤ 里山や豊かな自然の利活用

環境保全の重要性を次世代に伝える基盤として、志津学区に残る里山等の自然を地域資源として捉え、これらの資源を活かし、地域の活性化を図る。そのため、地域主体による NPO 法人等の設立の検討を進める。

併せて、市が計画する（仮称）新志津運動公園の整備において、環境学習を始めとした残地森林の管理・活用等について、市と地域とが連携し、継続的な協議を進める。

【地元の役割】 法人設立の検討・環境学習

【取り組み例】

○里地里山環境づくりの推進【里地里山プロジェクト】 (P.17)

○自然体験を通じて学べる場づくり【里地里山プロジェクト】 (P.17)

○自然と人を育てる楽校づくり【里地里山プロジェクト】 (P.17)

○官民連携による志津の杜づくりの推進【里地里山プロジェクト】

(P.17) 他

1. 楽座プロジェクト

交流が新たな活力を生み、誰もが楽しめるまちを目指します

喜びや楽しさを実感できる交流機会を創るため、志津まちづくりセンターやロクハ公園など地域の拠点を活用し新たな活動が生まれる場を創ります。年齢や立場を超えて、誰もが自由な発想でいきいきと活躍できる関係づくりを重視します。交流の輪を広げるなかで、次代を担う新しい人材の発掘やまちづくりに主体的に関わる仲間づくりを目指します。

■重点施策

○「楽しいまち」を創造する交流事業の企画・運営 プラン

住民が地域の魅力を再発見し、暮らしの喜びを共有できるイベントや催しを企画し、志津への愛着を高める場をつくります。



○誰もが活躍できる関係づくりと人材発掘

子どもから高齢者まで、多様な世代が自由な発想で活動に参画できる仕組みを整え、まちづくりの新たな担い手を発掘・育成します。



○ロクハ公園・志津まちづくりセンターの活用 プラン

ロクハ公園や志津まちづくりセンターを拠点として、地域全体を対象として活動の幅を広げ、住民同士の交流が生まれる機会を創出します。



2. 福祉プロジェクト

誰もが自分らしく最期まで暮らせるまちを目指します

高齢化により孤立や認知症支援などの福祉課題が多様化していることから、地域で解決していく「地域共生型」を目指します。そして、障がい者の関係施設を大切なパートナーとして位置づけ、地域参加を推進します。町内会の福祉課題にも寄り添うことに努めて、担い手の育成にも注力します。地域の福祉力を「当たり前の日常」として高めて、持続可能な支え合いの仕組みづくりを目指します。

■重点施策

○多世代が交流できる居場所づくりと孤立防止

まちづくりセンターをハブ（拠点）とし、多世代交流カフェや子ども食堂（くすのきレストラン）を運営するほか、孤立を防ぐ気軽な交流機会を創出します。



○町内会の福祉課題への伴走・後方支援

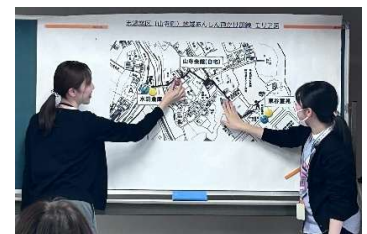
各町内会・自治会が抱える福祉課題を丁寧に把握し、活動を抱え込みすぎないよう適切な距離感で伴走します。また、地域安心声かけ訓練等を通じて見守り体制を強化します。



○健幸(健康×幸せ)や認知症の支援に向けて

プラン

高齢者が健康で幸せに暮らせるために、認知症や介護の予防活動を推進します。そして、外出機会の支援にまめタク等の利用促進に努めます。特に認知症や介護については家族も含めて支援相談や見守り体制の充実に努めていきます。



○障がい者の地域参加と施設との連携推進

学区内の障がい者施設・グループホームと連携し、地域行事への参加支援を通じて、共に生きる「共生パートナー」としての関係を築きます。

○福祉の担い手育成と持続可能な体制整備

志津社会福祉協議会の役割を「つなぎ・調整」に特化させ、効率的な事業体系を整えます。あわせて、新たな人材の発掘と育成に注力し、活動の継続性を確保します。



○外出支援の促進

プラン

外出の支援にまめタク等の利用促進や行政との連携で公共交通のあり方を検討していきます。



3. 里地里山プロジェクト

豊かな自然を活かして学び、自然環境を活用できる
まちを目指します

志津に残る貴重な「里地里山」を持続的に活用することで、地域の自然環境の保全・循環型社会の構築・地域住民の参加・人材育成を同時に実現することを目的とします。

また、里地里山の価値を学区内外に発信し人々が自然と関わりながら、学び・働き・育つことができる場を創出します。長期的かつ地域に根ざした活動の基盤を整備することで、持続可能な地域づくりを推進します。

■重点施策

○里地里山環境づくりの推進

プラン

放置が進む学区内の里地里山を地域資源として再認識し、保全と利活用を一体的に進めることで環境保全・教育・防災・地域活性化に資する持続可能な里地里山環境づくりを推進します。



○自然体験を通じて学べる場づくり

プラン

「志津里山自然学校」を通じ、自然体験から持続可能な社会の実現に向け学びと実践の場を創出します。



○自然と人を育てる^{がっこう}楽校づくり

プラン

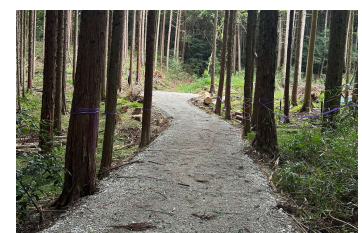
「志津野良仕事楽校」を通じて、自然と関わる実践的な学びと交流を深め、共感できる仲間づくりと地域の担い手の育成を図ります。



○官民連携による志津の杜づくりの推進

プラン

地域と行政・民間が協力し、地域の知恵と力を活かしながら里山の魅力を次世代につなぐ新しい活動拠点として、（仮）「志津野外活動センター」の実現と地域主体による NPO 法人等の設立に向けた検討をしていきます。



4. 地域見守りプロジェクト

子どもたちの通学と防犯で安全に安心して暮らせるまちを目指します

地域の子どもたちが安全・安心に通学できる環境づくりを最重要課題として、地域が一体となった見守り活動の充実と交通安全・防犯意識の向上を図ります。

あわせて、PTA 解散後も継続可能な地域主体の見守り体制の確立を目指します。

■重点施策

○地域全体で子どもを見守る体制の強化

民生委員や地域の関係団体・保護者等が連携して、ワークショップを通じて通学路の危険箇所や見守りの課題を共有していきます。安心マップの作成・更新を行い、地域全体で子どもの安全を見守る体制を強化します。



○地域全体の交通安全意識の向上

交通安全教室や研修会を実施し、子どもから大人まで交通ルールの理解を深めて、日常的な交通安全への意識向上を図り、安全で安心して暮らせる地域づくりを目指します。



○地域主体による持続可能な見守り組織の確立

PTA 解散後の新たな仕組みとして、地域住民が主体となった子どもを見守る組織の結成を目指します。継続的な活動が可能な体制を整え、地域で子どもを育てる環境づくりを目指します。



○地域全体の防犯意識の向上

犯罪の発生状況や最新の対策について関係団体と連携して情報共有を行い、住民一人ひとりの防犯意識を高める啓発活動を推進します。

5. 防災プロジェクト

防災意識と共助の力で、災害に負けない安心のまちを目指します

「志津学区防災計画」に沿って取り組んでいくことを基本として、各町内会と連携して「防災対応能力の向上」に努めていきます。そのためには、自らの安全を守るための訓練・研修、防災リーダーの育成を推進していきます。また、発災時の迅速な情報収集や「地域防衛力*」「学区防災体制」の確立を目指します。

■重点施策

○志津学区防災計画の運営組織の基盤づくり

学区防災計画に沿って平常時の活動をしていくことが重要なことから、各町内会・自治会の自主防災組織との連携を目指します。



○自己防衛力を高める啓発・研修活動の推進

災害リスクを正しく理解し、自らを守るための具体的な「考動」がとれるよう、あらゆる機会を通じて防災研修や啓発活動を継続的に実施します。



○防災リーダーの育成と参画促進

他プロジェクトのイベント等でも防災に触れるきっかけをつくり、地域住民の関心を高めることで災害時に主体となって活動できる防災リーダーの育成に努めます。



* 地域防衛力とは、(自助)住民自身、(共助)地域住民、(公助)自衛消防・自治体支援をいう。

6. DXプロジェクト

DXにより、情報共有と利便性向上の両立を目指します

前計画で整備した情報発信インフラ基盤を活用して、地域 DX*を推進することで情報発信力と利便性を高め、住民のまちづくり参画を促進します。あわせて高齢者や誰もが利用しやすい情報環境づくりを目指します。

■重点施策

○学区の情報インフラ整備の推進

町内会・自治会の情報発信支援や災害時の緊急連絡、役員間の情報共有、広報編集などをデジタル化・IT化し、学区内の情報インフラを体系的に整備します。



○デジタルデバインド対策と学習支援

デジタル化に取り残される住民が生じないように、スマートフォンの操作説明会や活用講座を定期的の実施し、誰もが安心して利用できるデジタル環境を整えます。



○デジタル活用による事務・イベント管理の効率化

行事の出欠管理、公共施設の予約、オンライン決済等の導入を検討し、役員の事務負担軽減と住民の利便性向上を同時に実現します。



* Digital Transformation(DX)の定義

私たちは DX を、まちづくりのニーズや価値観の変化を的確に捉え、データやデジタル技術を活用して、情報発信や各種サービスの利便性を高める取組と定義します。あわせて、事業の進め方や組織体制、役割分担、町内会・自治会や地域団体との関係を見直し、より効果的で持続可能なまちづくりの仕組みを確立していくことを目指します。

1. 策定委員会の経緯

第1回策定委員会	令和7年(2025年)6月24日(火)	ワークショップの開催①
第2回策定委員会	7月22日(火)	ワークショップの開催②
第3回策定委員会	8月26日(火)	ワークショップの開催③
プロジェクト推進会議	11月11日(火)	ワークショップ実施報告
第4回策定委員会	11月25日(火)	アンケート案・計画目次案検討
アンケートの実施	12月1日(月)～20日(土)	インターネット、紙による実施
第5回策定委員会	令和8年(2026年)1月8日(木)	アンケート結果、計画案検討①
第6回策定委員会	2月17日(火)	計画案検討②・最終案作成
理事会	3月7日(土)	計画の承認
定期総会	3月21日(土)	計画策定について報告

<策定委員会の様子>



<ワークショップの様子>



2. 策定委員会 委員名簿

順不同（肩書は計画策定作業時点）

委員長	我孫子清章	志津まちづくり協議会 会計
副委員長	奥村美佳	楽座プロジェクトリーダー
委員	奥村次一	志津まちづくり協議会 会長
	山元義宣	志津まちづくり協議会 副会長
	鈴木 登	志津まちづくり協議会 副会長
	宇野敬造	福祉プロジェクトリーダー
	北川博之	里地里山プロジェクトリーダー
	田淵 進	安全安心プロジェクトリーダー
	林 文男	防災プロジェクトリーダー
	服部利比郎	情報プロジェクトリーダー
	山元繁一	岡本町町内会 会長
	我孫子 博	青地第一町内会 会長
	竹村 徹	追分町内会 会長
	河口仁美	上尾町内会 副会長
	青木 瞳	ロクハタウン自治会 会長
	西垣和美	福祉プロジェクトメンバー
	奥村春菜	楽座プロジェクトメンバー
事務局	政川純子	志津まちづくり協議会 事務局長
	浅井利治	志津まちづくり協議会
	木村隆文	志津まちづくり協議会

事務局サポート

中間支援	福留直樹	(公財) 草津市コミュニティ事業団 事務局長
	茶木修一	(公財) 草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課長
	栗田真理子	(公財) 草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課
	中村志希	(公財) 草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課

行政	眞崎貴之	草津市 まちづくり協働課 地域協働係
	西尾 透	草津市 都市地域戦略課 都市地域戦略係

3.住民アンケートの実施

■ 実施主旨

本計画の策定にあたり、志津学区に暮らす住民の方を対象にアンケートを実施しました。

アンケートでは、学区の魅力や生活上の不安、協議会が実施する事業の認知等についての設問や自由記述項目を通じて、地域課題や学区の将来の展望を分析するため実施しました。

■ 実施概要

実施期間：令和7年（2025年）12月1日～12月20日

調査対象：志津学区にお住まいの方など

調査方法：アンケート用紙、ウェブアンケート

回答数：186件

回答状況：30代から50代の現役世代が回答者の約6割を占め、働き盛りや子育て層の声を色濃く反映する結果となりました

■ 回答結果の概略

○高い居住満足度と環境への愛着

志津のまちの特徴に関する設問、地域の魅力や誇りについての自由記述を通じて、豊かな自然やロクハ公園といった憩いの場があること、閑静な住環境が地域の魅力として評価されました。

○交通安全と利便性への強い要望

生活上の課題として、歩道の整備や通学路の安全確保、公共交通（バス）や補完交通（まめタク）の利便性向上を求める声が多く寄せられました。特に、志津道の渋滞緩和や高齢者の移動手段の確保が切実な課題となっています。

○つながりの再構築と情報発信

地域活動に関する設問・自由記述からは、世代を超えた交流や新旧住民がふれあう機会の創出が期待されています。また、公式LINEやSNS等、デジタルツールを活用したタイムリーな情報提供を求める層の増加がうかがえます。

★★アンケートの全設問に対する集計結果や、自由記述で寄せられた貴重なご意見は、志津まちづくり協議会のホームページにて公開しています。



志津まちづくり協議会
地域紋章



「城池と三本楠」

下部には青地城址の城池を、上部には志津小学校にある3本のクスノキ(草津市の保護樹木)を配し紋章化したものです。私たちの住む地域が、大きく発展して欲しいという願いが込められています。

第4次 志津まちづくり計画書
令和8年(2026年) - 令和12年(2030年)

志津まちづくり協議会

〒525-0041 滋賀県草津市青地町 561 番地
(草津市立志津まちづくりセンター内)

電話/FAX 077-562-0047 メール shizu@machikyou.jp
<https://www.machikyou.jp/shizu/>

